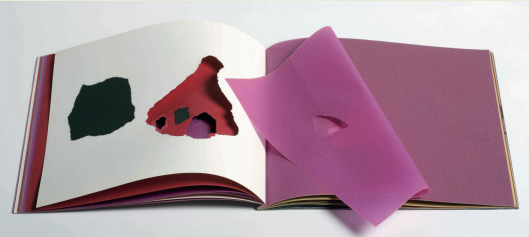


企画展

4月7日(土)－6月10日(日)

休館日：月曜日(4/30は開館)

ブルーノ・ムナéri　こどもの心をもちつづけるということ
Bruno Munari: Conservare lo spirito dell'infanzia



ブルーノ・ムナéri 《読めない本》試作 1955年、パルマ大学CSAC
© Bruno Munari. All rights reserved to Maurizio Corraini srl. Courtesy by Alberto Munari

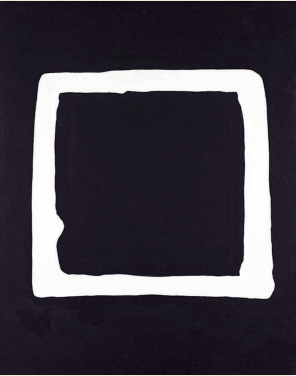
ブルーノ・ムナéri(1907-1998)は、後期未来派のメンバーとして活動を開始し戦後は美術の新しい在り方を模索し続けつつ、デザインや絵本、遊具、さらには著述などでも活躍をしたイタリアの美術家です。これまでにない規模の回顧展となる本展では、日本初公開の約150点を含む、約320点のさまざまなムナériによる作品を展示することで、このユーモアに富んだ稀代の表現者の全貌に迫ります。

コレクション展

4月7日(土)－6月10日(日)

休館日：月曜日(4/30は開館)

抽象の悦び
Pleasure of Abstraction



吉原治良《作品(黒地に白四角)》1971年 当館蔵

20世紀を通じてダイナミックに展開した抽象絵画。日本でも、1920年代に村山知義が革新的な作品を発表し、1930年代には村井正誠らが独自の表現を切り拓きました。戦後は斎藤義重が《鬼》で概念の抽象絵画化を試み、アンフォルメル運動に関わった今井俊満や堂本尚郎らが大作を生み出しています。大正期から現代まで、22点の所蔵作品で、日本の抽象美術の多様で豊かな表現世界を紹介します。

6月23日(土)－9月2日(日)

休館日：月曜日(7/16は開館)

国立民族学博物館コレクション　貝の道
The Collection of National Museum of Ethnology — Shell Road



彫像　イベジ(ヨルバ民族、ナイジェリア連邦共和国) 1979年取集 国立民族学博物館蔵

国立民族学博物館のコレクションから、世界中のさまざまな民族によって作られた貝細工約160点を、美術館の空間で展示します。本来、博物資料とされる貝細工の、豊かで独自の造形的な面白さを発見しながら、それぞれの貝細工が生み出された社会・生活文化を理解し、私たち人間と貝とがどのような関係を育んできたのかを問い直します。葉山の海に面した当館ならではの関連プログラムも計画しています。

6月23日(土)－9月2日(日)

休館日：月曜日(7/16は開館)

絵ってとまっているのかな？
Is Painting Still?



鶴岡政男《視点B》1966年 当館蔵

「平らな面」の上に、線が弓|かれて形をつくり、色が塗られて壁にとまっている「もの」。アニメーションや動画とちがって、「絵画」や「写真」は動かないものと思っていませんか。色と色の響きあい、描かれた形の立体感、迫力ある自然描写などによって、絵は見る人の眼のなかで生き生きと動き出します。大人から子供まで楽しめる、静かなエネルギーがみなぎる作品たちが夏の展示室で待っています。

9月15日(土)－11月25日(日)

休館日：月曜日(9/17, 9/24, 10/8は開館)

アルヴァ・アアルト——もうひとつの自然
Alvar Aalto — Second Nature



アトリエのアアルト、1945年
©Alvar Aalto Museum, photo: Eino Mäkinen

一方、感覚を心地よく刺激する曲線が特徴的な彼の家具やガラス器は、今日でも高い人気を誇っています。本展では300点以上の作品、ヴィンテージ・プロダクト、資料などを紹介します。

20世紀フィンランドの建築家アルヴァ・アアルト(1898-1976)の創造の世界とデザイン感覚を紹介する、ドイツのヴァイトラ・デザイン・ミュージアムとフィンランドのアルヴァ・アアルト美術館による国際巡回展です。アアルトは自然を究極的なモデルと考え、素材やフォルムに採り入れて、自然と共存する建築を造りました。

9月15日(土)－11月25日(日)

休館日：月曜日(9/17, 9/24, 10/8は開館)

描かれた「建物」
Buildings in Pictures



松本竣介《建物》1935年 当館蔵

同時開催のアアルト展にあわせ、当館のコレクションから建築をテーマに作品を紹介します。建築は、歴史や国によってさまざまな形を示すもので、都市の風景を構成する重要な要素であると同時に、芸術家の空想力を刺激するテーマとしても重要なものでした。本展では、佐伯祐三、松本竣介、ピーテル・ブリューゲル、ヘンリー・ムーアなど、旅先の風景、遺跡、架空の世界といった、古今東西の「建物」が登場する絵画や彫刻作品約70点を展示します。

12月8日(土)－2019年3月24日(日)

休館日：月曜日(12/24, 1/14, 2/11は開館)、12/29-1/3

堀内正和展　おもしろ楽しい心と形
HORIUTI Masakazu: Curious Minds, Joyful Forms



堀内正和《なめの円錐をなめに通り抜ける円筒》1971年 当館蔵
撮影：佐藤新一(2003年 神奈川県立近代美術館 鎌倉)

彫刻家・堀内正和(1911-2001)は、身体の一部や幾何学図形など、身近な形をヒントに制作しました。鑑賞者が覗き込むことで完成する、「のぞき(NOZOKI)」の逆読みから命名された「IKOZON」彫刻をはじめ、独自のエロスや諧謔性に富んだその作品は思わず笑みを誘うものです。本展では、とかく難しいと思われがちな抽象彫刻がより親しみやすく感じられるよう、完成作とともに制作過程が記された未公開スケッチやメモなどを紹介し、作者の思考を紐解きます。

12月8日(土)－ 2019年3月24日(日)

休館日：月曜日(12/24, 1/14, 2/11は開館)、12/29-1/3

モダンなフォルム
Forms in the Modern Art



当館の名称にも掲げられた「モダン」(近代)という言葉。一般に「現代的」、転じて「洒落た」ものを指して使われ、一方でこの言葉自体がもはや「レトロ」な響きをも感じさせますが、本来は「新しさ」を意味する言葉です。現代彫刻に斬新な知性を込めた堀内正和の個展にあわせ、絵画から彫刻、工芸やデザインまで、20世紀の各時代に作家たちが試みた「新しさのかたち」を展覧します。